

# 千葉県介護福祉士会 会報 にじ

2025.12.10

第134号



「介護の日」イベント

## ケアスマイルフェス！



11月15日、社会福祉センターにて「ケアスマイルフェス」を開催しました。当日は同センターにて開催されていた「社福フェス」にご来場の方もご参加くださり、約120名の方が様々な体験を楽しめました。

### ① ボッチャ体験

白いジャックボールに、赤・青それぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競う競技です。

一般の方、車いすの方、視力や聴力に障がいがある方。誰でも楽しめます。



「簡単そうだったけど、意外と難しかった」という感想がありました。

### ① ボッチャ体験

### ②もし話ゲーム

### 相談コーナー

### ④認知症 VR 体験

### ⑤講演会

「認知症のある  
人と心地よく暮  
らすヒント」

### ③疑似体験 コーナー

### ②もし話ゲーム

「もしも自分が重病になったら？」自分の伝えたい『大事な言葉』をみんなで作るカードゲームです。

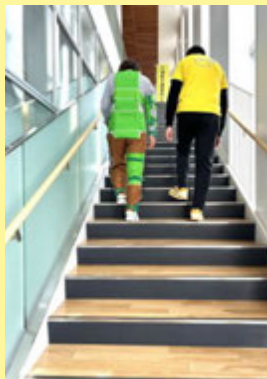
「自分のことで周りに迷惑をかけたくない」「自分が幸せだと思っていれば、環境がどんなでも幸せ」「まず周りのことが優先で、その後に自分の気持ちがある」など、カードを通して最期の時を考えました。



### ③疑似体験コーナー

利き手・利き足に可動域を抑える装具をつけて、背中を丸めるように固定して、両手両足に錘をつけて・・・

さあ、歩きますよ！1, 2, 3・・・



「高齢者が下ばかり向いている気持ちが分かった」  
「言葉では習っているけど、実感できていなかった」  
「疲れました」などの感想がありました。

### ④認知症 VR 体験

専用のゴーグルをつけて、認知症の人が見ている世界を覗いてみました。



「心理的安全性4因子」(資料より抜粋しました)

1. 話しやすさ 「何を言っても大丈夫」
2. 助け合い 「困ったときはお互いさま」
3. 挑戦 「とりあえずやってみよう」
4. 新奇歓迎 「異能、どんと来い」

### 車いす体験

車いすに乗って、  
段差の上り下り、  
カーペットとフロー  
リングの違いを



確かめました。「車いすは腕が大変」というご意見が。



「滑るし、力が入らない」  
「床に落としたら拾えない」

「『いくら』って言われても難しいかも」などの感想が。

手袋を2枚重ねて、  
財布からお金を出し  
たりペットボトルを開  
けたりしてみました。



### ⑤講演会

「認知症のある人と心地よく暮らすヒント」

椎名 淳一会員に「心理的環境」とアセスメントの重要性を教えていただきました。



『「心理的環境」は BPSD  
に繋がる。その前の環境要  
因を何とかするのが大事な  
んです。だからアセスメント  
が必要なんです。』





こんな研修もやっています

## 外国人介護人材のための 介護福祉士国家資格取得支援講座



「外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座」は、厚生労働省の補助事業を日本介護福祉士会が受託し、千葉県ではモデル地域として3年前にスタートしました。当初は全国3県のみの取り組みでしたが、現在は全都道府県へ広がる注目講座となっています。

千葉県での受講者は、初年度15名、今年度は定員20名がすぐに埋まるほど希望者が増えており、事業所単位の応募数を制限しながら公平な機会を確保しています。来年度は、より多くの方が参加できるよう、体制づくりを進めていきたいと思っています。

講座は全5日間。介護の日本語、試験概要、全科目講義、模擬試験、解説まで体系的に学べる内容です。背景には、在留資格「介護」創設から8年で1万2千人を超える外国人介護福祉士が誕生し、今後もさらなる活躍が期待されている状況があります。資格取得は日本で働き続けるための重要な条件であり、ご本人・事業所・ご利用者にとっても欠かせないステップです。

私たち自身、様々な国の方とともに学ぶ中で、介護に向き合う真剣さや温かさにたくさん触れてきました。「国籍は違っても、心で支える介護は同じ」・・・そんな思いが年々強くなっています。受講生の皆さんは本当に努力家で、相手の気持ちを丁寧に汲み取る姿勢は現場でも高く評価されていることと思います。合格率は約半数ですが、挑戦と努力の積み重ねこそが成長の証だと感じています。

昨年度は受講生とちばポートタワーで小さなお疲れ様会を開催しました。今年度は、もっと多くの方と交流できる機会を企画中です。国籍はベトナム、フィリピン、インドネシア、ネパール、中国など多様で、私にとっても学びと刺激をいただく大切な時間となっています。

**この文章を読んでくださったみなさんへ。**

挑戦する方も、支える先輩も、受け入れる事業所の方も、ぜひ一緒にこの業界を盛り上げていきませんか。千葉から、介護の未来をより温かく、力強く育てていけることを願っています。多様な仲間との新たな出会いを楽しみにしています。



(受験対策委員会 小笠原 一志)

# 会員の「自分は頑張ってる\*」！



会員から見て「この人は頑張ってるな～」と思う人を数珠つなぎで紹介していくコーナーです。会員全員をここに紹介できることを願っています♡

## 「自然に続いてきた私の活動」

千葉県介護福祉士会では、会員が心身を整え、自身のケア観を深められる「場づくり」を大切にしてきました。その一つとして実施してきた自然観察会は、単なるレクリエーションにとどまらず、自然に触れることで参加者の表情が緩み、対話が穏やかに深まる特色ある取り組みとして定着しつつあります。野鳥の声、木々の揺れ、季節の匂い—それらに身を置くと、人は不思議と本来の自分自身のペースを取り戻していきます。私自身、この活動を通じて「自然はケア職を回復させる力を持っている」と確信するようになりました。



こうした活動の積み重ねが広がりを見せ、私の活動も「自然な流れで」次の段階へと進みました。それが、特定非営利活動法人 9612G Project の設立です。自然観察会の開催、またその経験を基盤に、たき火を囲んで語り合う「KAIGO+CAMP」を展開し、ケアに携わる

人が安心して本音や葛藤を共有できる場を提供しています。焚き火のゆらぎは心を和ませ、自然の静けさは言葉を紡がせてくれます。そこには、『ケアする人をケアする』ための豊かな環境が広がっています。

9612G Project は、千葉県介護福祉士会の取り組みと歩調を合わせ、自然を通じた回復と学びを地域に根付かせていくことを目指しています。活動の詳細や今後の予定について興味のある方は、ぜひ二次元コードよりホームページをご覧ください。自然に寄り添いながら、ともに前へ進んでいきましょう。

椎名 淳一



次は椎名会員から見て「介護を頑張っている」人を紹介してもらいます。もしかしたらあなたかもしれないですね。





# これ、知っトク<sup>得</sup>？

「日本で介護を学ぶ留学生たちの声」

～文化や国境を越えて、心を通わせるケアを～



福祉の専門学校「江戸川学園おおたかの森専門学校」には、様々な国から来日し、介護を学んでいる留学生がいます。彼らは授業の合間に介護施設でアルバイトをしながら、日々日本の介護を肌で感じ、学び続けています。今回は5人の留学生にアンケートと面談を行い、日本で介護を学ぼうと思ったきっかけや、学校と仕事を両立する中で感じていることを聞きました。

## ○日本で介護を学ぼうと思ったきっかけ

「人のために働くことが好き」「誰かの役に立てると嬉しい」「日本の介護は知識や技術が発達していると聞き、学びたいと思った」「将来は自分の国でも高齢者が安心して暮らせる施設を作りたい」。そんな気持ちが彼らの出発点になっています。初めは日本での生活や言葉に不安を感じていたそうです。それでも「学びたい」という気持ちが強く、彼らを支えていました。

また、自分の性格に合っていると思った「日本の文化やアニメが好きで、日本で働きたいと思った」という声も聞かれます。

きっかけは様々ですが、「人を大切にする介護を学びたい」という気持ちは、皆に共通していました。

## ○学校と仕事を両立する日々

介護施設で働きながら学ぶ生活は決して楽ではありません。「テストや宿題があるときが大変」と話す学生もあり、時間の使い方に苦勞することもあります。さらに、現場では会話のスピードが速く、方言や専門用語も多いため、理解するのが難しいこともあるといいます。

一方で、「困ったときは職員が声をかけてくれて助けてくれる」「先生や職員が支えてくれる」と話す学生もあり、支えてくれる人の存在が大きな励みになっています。しかし、現場の全てが温かい関係だけで成り立っているわけではありません。「挨拶をしても返してくれない職員がいる」「話しかけても返事をもらえず、仕事がしづらい」と、率直な声もあります。介護の現場でコミュニケーションがとれないのは、文化や言葉の違いだけではなく、お互いを尊重しあう心も問われる場面です。

## ○日々の喜びと励まし

アンケートや面談を通して聞かれた学生たちの言葉から共通して感じられるのは、利用者さんからの温かい反応が、日々の学びや仕事の大きな支えになっていることです。「名前を覚えてもらえたことが嬉しい」「会いたかったよ」「『明日も来るの』『待ってるよ』と言われると、頑張ろうと思える」「利用者さんの笑顔」「『優しいね』『ありがとう』と言われた瞬間が一番力になる」。そんな日々の小さな喜びが、学びや仕事の原動力になっています。

## ○これから介護を目指す留学生へ

先輩たちからの言葉には、「日本語をしっかりと勉強してから来てね」というアドバイスのほか、介護の現場で大切な心構えも含まれています。「大変でも笑顔を忘れず、あきらめずに頑張れば必ず成長できる」「健康であることを大切に」という声もありました。

留学生にとって介護の現場では、相手の思いをくみ取る力、そして自分の気持ちを言葉で伝える力が必要です。少しずつでも日本語を学びながら、元気に前向きに挑戦してほしいと、先輩たちの思いはそう伝わってきます。また、学生たちはこれからも介護の仕事をつづけ、利用者や家族に幸せを届けられる、信頼され思いやりのある介護福祉士を目指しています。さらに、現場で共に働くスタッフのことも大切にしながら、人と人を繋ぐ温かい介護を提供したいと考えています。

## ○共に働く仲間として

彼らの支えとなっているのは、家族や友人はもちろん、先生や職場の皆さんです。周りの人の一言や行動が留学生たちにとって大きな励みになります。一方で、文化や価値観の違いによる何気ない言動が、彼らを傷つけてしまうこともあります。だからこそ、私たちもそれぞれの文化や価値観に触れ、共に働く仲間としてお互いを尊重しあえる人でありたい、強くそう感じました。（松川 典代）



一般社団法人  
千葉県介護福祉士会

〒260-0026

千葉市中央区千葉港4-5

千葉県社会福祉センター5階

TEL 043-248-1451

FAX 043-248-1515

E-MAIL: kai5niji@poem.ocn.ne.jp



千葉県介護福祉士会 HP

<http://care-net.biz/12/kai5chiba/>



千葉県介護福祉士会 Facebook



※事務所の電話受付は平日の  
9～16時となっております。  
時間外及び土・日・祝日に開催される  
研修会等のお問い合わせについては、  
留守番電話にて対応しております。

# 事務局だより

2025年12月1日現在の会員数 602名

東葛ブロック	150名
千葉・内房ブロック	186名
北総ブロック	178名
東総・外房ブロック	88名

## 賛助団体(6団体)※敬称省略

※承諾を得て団体名を掲載しております。

・社会福祉法人 翠耀会

特別養護老人ホーム グリーンヒル

・東洋羽毛 北関東販売 株式会社

・社会福祉法人 九十九里ホーム

障害者支援施設 聖マーガレットホーム

・社会福祉法人 広寿会

特別養護老人ホーム いすみ苑

・社会福祉法人 オリーブの樹 オリーブハウス

・医療法人社団 一心会

初富保健病院

初富保健病院介護医療院

いつも本会運営についてご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

11月15日に開催したケアスマイルフェスは、多数の参加者のご来場にて、賑わいのあるフェスとなりました。各ブース、参加者が楽しんで体験できるよう頭をひねってひねって企画しました。当日は社福フェスも開催され、千葉盲ろう者友の会様、千葉県手をつなぐ育成会様からもご参加いただきました。

皆様、ご協力ありがとうございました。

今後も県民の皆様、また介護に携わる方々に当会を知っていただけるよう、来年2026「介護の日」イベントに向けて計画していきます。どうぞ、ご期待ください!!